

**【栄区】令和 8 年第 1 回区づくり推進横浜市議員会議
議事録**

開催日時	令和 8 年 2 月 13 日（金） 午前 10 時 30 分～午前 11 時 30 分
場 所	栄区役所新館 4 階 8・9 号会議室
出席者	<p>【座長】 輿石かつ子議員</p> <p>【議員：2 名】 大桑正貴議員、長谷川えつこ議員</p> <p>【栄区：28 名】 松永朋美区長、米山岳夫副区長、 雨堤崇福祉保健センター長、 大野豊福祉保健センター担当部長、 丸山知明栄土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	1 令和 8 年度個性ある区づくり推進費栄区予算案について
発言の 要 旨	<p>（説明省略）</p> <p>長谷川議員：11 ページの（3）成人期の食育推進事業の新規取組① 4 歳児健診に来所する保護者への啓発について、成人期の食育推進事業ということだが、東京都文京区では、ベジファーストを区全体で推し進めることによって健康を促進し、介護や医療などの費用を抑えることができている事例がある。ぜひお母様を基にお子様にもベジファーストや野菜をたくさん取ることを積極的に発信していき、健康の促進につなげていただきたい。文京区では、区役所を入った入り口のところから写真やパネルなどで、どうしてそういったベジファーストがいいか、野菜をたくさん取ることの効果などについて、たくさん掲示している。今回、来所する保護者への啓発はどのようなことを行うのか。</p> <p>栗竹史明福祉保健課長：こちらは今お話いただいた文京区の事例と似ているが、お母様方の世代になると、野菜の摂取であるとか、あるいは忙しいからなかなか朝食もしっかり取れないといったような傾向が見られる。そこで、野菜の摂取を促進するため、ベジチェックという、推定野菜量を測定できるセンサーで管理して計測する機器をレンタルし、そういった機器を使いながら啓発をしていくことと、併せて朝食をバランスよくしっかりと取るというところを、健診に来られた保護者の方に重点的に啓発していく。</p> <p>長谷川議員：素晴らしい機器を今後活用するということが、これからお</p>

子様を育てるお母様は食事に関してさらに注目していく世代になると思うが、一般的な年齢関係なしに、こうやって野菜をたくさん食べようということ、区を挙げて広めていっていただきたい。

15 ページの高齢者の I C T 利活用支援事業だが、これはボランティアの方々がスマホのやり方を教える企画だと思うが、区の事業を見ると、高齢者の方が登録しなければならない事業に関しても、やはりスマートフォンを使わなければいけないことがたくさんある。見守り事業に対しての申込みや、介護保険認定の申請、介護保険証の再交付、高額療養費制度の申請、ヨコハマあんしん登録など、こういったことをやりたいがやり方が分からないという方がいる。実際にこのスマホ教室の中で、ご自身が登録したい事業と一緒に手伝ってくれることも入ると、日頃からこのやり方はどうすればいいのかとか、あと高齢者の方には間違えて登録してしまったものを消したいとか、そういった方もいるので、今お困りのこともここで作業を手伝ってもらえるような、そんな空間にしていきたいが、どうか。

小嶋宏子高齢・障害支援課長：スマホ教室と相談会という形で2つの種類に分けて事業を実施しているが、相談会のほうは、多くはLINEの使い方であったり、写真の送り方であったりいろいろな、そういうご希望されるものをボランティアが教えるという形を取っているので、必要なアプリのダウンロードとか、そういうものもできていると思う。教室のほうは、テーマを決めており、例えばタクシー配車サービスのアプリをダウンロードして使ってみるとか、比較的生活の中に取り入れられるようなものをメニューとしているので、個々の希望にも沿いながら事業を実施している。

長谷川議員：本当に各種申込みフォームが大体インターネットを使うような形式になっていて、それに戸惑っている方が多いので、そういう方の手助けもぜひこの事業でしていただきたい。

23 ページの区制 40 周年記念事業において、今回、みんなで祝おう！ 私たちがつくる 40 周年記念事業があるが、今どういった団体が補助金の申請をしていて、何団体ぐらいがこの事業に参加しようとしているのか教えてほしい。

金子強総務課長：区に対して、それぞれの団体がいろいろ企画して提案を申し込んでいただく形で募集していたが、ちょうど先日締切り、約 25 団体に提案いただいた。これから審査を行って決定していく。

長谷川議員：せっかくこういった機会に手を挙げた団体様がいるので、ぜひ盛り上げていていただきたい。

大桑議員：最初に、区提案反映制度の2番だが、議員団会議かこちらの区づくり市議員会議か忘れたが、何度か発言していて、戸塚区の方から、具体的に言うと鈴木先生から話があって、いろいろうまく進められればなという話をしている。順調に進んでいるということで、感謝しているというのが1点と、また状況によって情報提供をぜひお願いしたい。

続けて、ICTについては、地域によっても役員をやる方によっても全然違ってくるが、本当に難しく、小山台とかはやはり高齢化が進んでいて、役員になる方はどうしても60歳以上、70歳、80歳ぐらいになっている。携帯は何とかスマートフォンに移行できているが、市の4月とか5月のいろいろな申請書類は書類がメールに添付されていて、それを開いて、人数とか防犯登録とかいろいろ添付しなければいけないときに、やはりパソコンがないとなかなか厳しい。スマートフォンだと見づらかったり、それに書くことができなかったり、いろいろあり、そこら辺の手伝いを全員にするのはなかなか難しく、課題になっている。もちろんその書類を持って区役所に来て話をすればいいが、1回では済まなく、持ち帰って会長の印鑑をもらうなど、どうしても2回、3回になってくると、それだけで区役所まで来るのがおっくうになってしまい、成り手がなくなるとかそういう話になっていたのも、そこら辺も課題としてある。そういうICTのところなのか、役員の成り手のところなのか分からないが、何かフォローができればと思っている。

また、先日も小山台小学校が地域防災拠点になっていて、災害のときに飲める耐震化の給水栓の水道があったが、区役所の建物は耐震の水道管になっているのか。そこら辺も含めて、地域の地下のところもつながっているのか。あと、学校や地域防災拠点は、下水直結トイレなどあるが、区役所は何か災害等あったときの中心の一つだと思うので、どうなっているか。

あとは、窓口のところで、今回ちょうど衆議院選挙の期日前もかなり多くて警備員の方に立っていただくなど、いろいろな人を配置していたと思う。また、マイナンバーの窓口でも、週末を挟んで月曜日が忙しいとか、金曜日の駆け込みが忙しいとか、ちゃんとそういうのを見て人を配置していると思うが、知り合いの方が期日前投票に来たときに、がらがらなのに人がすごく多くいたり、マイナンバーの更新をしたときも同

様であったりしたので、人件費の無駄でないかという話が合った。そこから辺、タイミングだけ切り取られるとすごく難しいが、何か一工夫したら誤解を解けると思う。

金子総務課長：耐震の水道とかトイレということだが、区役所には両方とも準備がある。それから、区役所自身が耐震補強をちゃんとされている庁舎となっているので、そういう意味でこの庁舎自身も比較的安全だと考えている。

それからもう一点、窓口の関係で、選挙のときの期日前については、まず、入り口のところの警備員は、やはり混雑してくる日にちを捉えて、大体3日前から配置して誘導を行っている。期日前は最近、すごく多くの方が来られるので、やはり人も増やしているのと、大体、前日、前々日ぐらいにはかなり多くの方が来られるということで人も厚めに配置したり、受付の機械も増やして対応したりして、できるだけ並ばないで投票できるような形で準備を進めた。

谷川みちる地域振興課長：自治会・町内会のICT化、特に書類提出のしやすさについてだが、令和8年4月から自治会・町内会ポータルというものができ、これまでいろいろと春の4月の時期にご提出いただいていた書類が提出しやすくなる仕組みが整う。具体的に言うと、現況届という地域の加入世帯を入れていただくようなデータのものや、地域活動推進費補助金をはじめ、いろいろな補助金の申請なども全部一括してそのポータルでやっていただけるようになる仕組みが整うので、引き続き使っていただきやすいように支援していきたい。

杉田和成戸籍課長：窓口の混雑状況に向けての職員の数だが、ご指摘のとおり、月曜日、金曜日は厚めに配置している。マイナンバーカード関連のお客が大変増えている状況で、住民異動系でいうと1日当たり40名から50名くらい、証明発行は100名を超えるくらい、それでマイナンバーのほうは今、毎日200名を超えるくらいのお客様にお越しいただいている。これは天気などにも左右されるのでなかなか難しいところだが、月曜日、金曜日、それから土曜開庁は割と厚めに配置している。

大桑議員：窓口のところは、年齢によってとか、なかなか難しいところだと思うので、ぜひそこら辺はうまく周知とかできればなと思っている。

あと、耐震のところ、後で写真とかを見せていただきたいと思いますと思うが、耐震ができているのであれば、例えば区民の方が来たときのために、何個かでも水道を外に出してあってくめるようにするとか、みんな区役所

の中に入っていったいいのかとか、その辺のオペレーションを教えてほしい。そういうところで2個でも3個でも蛇口があると、それだけでも区民の方が安心するかもしれないし、あと、区役所でもできるとちょっといいかなと思った。これは区だけでできることではなくて局の方にも話はしてみたいと思うので、またいろいろ相談させてほしい。

あと、自治会・町内会のICT化のところ、そのポータルサイトはインターネットのほうで書類をダウンロードできるということか。

谷川地域振興課長：インターネットに自治会・町内会ごとの場所があり、そこの中に入力していただくような形になる。一度入力していただくと、翌年度は変更点だけという形になり、町内会長が交代されたときの引継ぎなどもスムーズに行えるようになるということと、皆さん同じ形で入れていただくので、区役所からのご説明などの支援もしやすくなると考えている。

興石座長：最初に、区提案反映制度だが、1番の円海山に関しては、令和4年、5年、6年、7年と継続して出していたので、ありがたいと思っている。継続して1つの事業を提案していただくのは、制度の使い方として私はとてもいいと思うが、過去の区提案反映制度で出したが、そのままということとかも実は幾つかあって、例えば過去に長沼のグラウンドについて、それに代わるスペースが欲しいというのがたしか出ていたと思う。それがその後どうなったか。

あと、今回、旧本郷地区センターの跡利用についての検討というのが出てくるが、本郷台駅前の市営住宅を含めた再編整備の中で、地区センターの跡地をどうするかという議論がやはり出されていて、区提案反映制度でもそれを出したはず。その辺の区提案反映制度を使った継続的な区取組ということに関しての考え方と、その具体的事案みたいなことがあったら教えてほしい。

田中麗子区政推進課長：手元に、提案したが対応されなかったものがその後どうなったかという資料はないが、今ご指摘いただいた長沼のほうはスポーツ広場の代替施設ということでよろしいか。

興石座長：たしかそういう提案だった。ただ、スポーツ広場という文言をあえて使わずに、長沼地域におけるスポーツや地域活動のできる場所の検討についての要望を区から出していた。

田中区政推進課長：長沼については、代替施設ということで、長らく目の前にある栄第二水再生センターの建物上部を活用することができない

かということを検討していた。ただ、かなり高い位置にあることと、そこまでの階段とか、車両の通路のつけ方とかかなり制約が多く、そういった状況をお話ししたところ、地域のニーズと合わないということで、活用の検討を断念したという経緯がある。長沼地域においては、ほかに活用できるところを市・区が持っていないので、代替地はご用意できないということ町内会に話させていただいた。

輿石座長：概要は私も把握しているが、そういった事例をこの制度を使って出したときに、視界をもう少し広くして、豊田高校の跡地利用はどうなっているのかとか、マネジメントということにまでつなげていけると、この制度の有効活用になると思う。せっかくいい制度なので、使い方を工夫していただきたい。

連動して、本郷台の市営住宅は、改修したときに戸数が何戸確保できるかという調査をして、それはちょうどコロナが始まった頃だったが、その中で近隣施設、図書館まで含めて総体的に、でも一体的に進めてしまうとあまりよい結果を生まないで、少しところてん式にやるというような話があった。今回はそれが旧本郷地区センターの所管という形でここに出ているので、あえて部分的な提出の仕方をされていると思うが、その辺の、これが5番に上がってくるまでの検討というのはどうだったのか。

田中区政推進課長：まず、本郷台駅周辺の再編整備については、区提案反映制度の項目としては上げていないが、引き続き関係区局と検討を進めている。3か年区局連携ということで予算をいただいて、局とともに検討を進めてきたところだが、現在のフェーズとしては、駅前を検討するに当たって、非常に重要なキーパーソンとなる独立行政法人都市再生機構と協議を始めている状況になっている。今そちらをまず進めてまちづくりを考えていこうという状況になっているので、区提案反映制度としては上げていない。

輿石座長：令和6年に上げていると思う。正式な文言としては多分、令和6年だったのではないか。

田中区政推進課長：3か年、区局連携として予算をいただいているという状況である。旧本郷地区センターについては提案している理由が異なり、昨年、埋蔵文化財センターで、老朽化した施設でお子さんがけがをされるという事故があった。そのような中で、用途廃止している施設の管理状況や管理の仕方というのをもっと議論したほうがいいのではな

いかということで、今回、区提案として取り上げさせていただいて市民局と議論したという状況。

輿石座長：それも私から要望を出してお願いしたことなので、耐震状況とか見ていただいたから、その流れはありがたいと思う。今もお話が出たが、用途廃止になった施設の運営とか運用というのがどうしても区任せというか、区を頼ってくることになる。なので、保有資産の有効活用ということで、土地に関してはかなり進めていただいたが、施設の管理ということに関して、やはりどこの局がやっていくのかということも大きな課題だと思う。ここで市民局に提案していただいているが、現状の組織だったら財政局も入れていくべきだと思うし、今度の4月からの組織再編を考えると、行財政局というところに移管していくので、今聞いた話でいうと、そこも視野に入れて提案していくべきだと思う。

田中区政推進課長：その視点に関しては、区としても全く同じ視点を持っていて、やはり区だけで用途廃止になった施設を持ったままというのは課題があると考えており、特に今回は合築ですし、駅前の再編とも絡んだところなので、かなり難しい状況にあると思っている。所管局には入っていないが、本来どうあるべきか財政局とも議論させていただいている。

輿石座長：野七里の場合も、あそこは埋蔵文化財センターが受けているから教育委員会の施設なのにもかかわらず、施設費がつかないというような状況がやはり課題の根っこにあると思うので、その辺の課題をつかんで、区は分かっているのだぞという区からの気概を見せていただいて、局を動かすようにしていただきたい。

そういった面で言うと、2番のスポーツができるところ、野球ができるところというのは、過去に継続的に区提案で出しているが、これは区提案で出さないと、逆に栄区民は使えないのか。結局、戸塚と近接にありつつも、立地は栄区にあるわけで、これをあえて区提案で出していないと通っていかないということ自体、事業の位置づけとしてどうなのだろうかと思う。そもそも栄区の金井町にあるものだから、区提案で出さなくても、にぎわいスポーツ文化局がやるべき事業だと思うが、どうなっているのか。

田中区政推進課長：通常、横浜市の施設であれば、こういった遊水地をつくったときに上部利用をどうするかというのは自然な流れででてくると思う。本件については神奈川県の実業ということで、事業の立てつけ

としてはなかなか難しい。関係局も多く、長期間にわたる事業になるので、継続的に区提案をして、関係局みんなが自分事として認識できるような環境をつくるために区提案をしているという状況。

輿石座長：そういう意味では、県立高校の跡地利用とか金井高校の廃校も計画の中に入っていて、豊田高校ももちろんしかり、県の施設に対して区の要望をしっかりと通していくという考え方はよく分かった。今後、それを定着させていくには、ほかの県に関わることを入れていくのも、いい考え方だと思う。

あと、子育てのことで、パマトコというアプリがあるが、実際、パマトコを栄区民はどのぐらい利用しているのかと思い、気にかけて皆さんに聞いているが、知名度があまり高くない。子育てしやすいまち栄区から機運醸成という意味でも、区民に対してはどんどん使ってくださいと言っていくべきと思うが、アプリの利用状況はどうか。

中村秀夫こども家庭支援課長：利用してもらうためにも、やはり関係者、それから区内の施設、そういったところにも引き続き発信を呼びかけていく。そういったところからまず始めていって、ここに行けばいろいろな情報が得られる、そういったところを定着させていく必要があると考えている。

輿石座長：災害ボランティアネットワークの場所が図書館から移動して別の場所になったが、その後どうか。この1階になるのか。

金子総務課長：移動になり、栄区社会福祉協議会のほうに設置することになった。

輿石座長：災害ボランティアネットワークの受入れが社会福祉協議会というのは日本列島そうなので、それは分かるが、スペースとしてボランティアさんが駆けつけてきて、ニーズとシーズをマッチングするのがあそこでいいのかという議論はまだ継続していると思う。この1階のスペースを使うという話にはまだなっていないか。

金子総務課長：実際、ボランティアの方々は多くの方が来られると思う。確かに栄区社会福祉協議会のスペースではそういう多くの人を受け入れるのは難しいと思うので、どういう場所で受け入れるか引き続き考えていきたい。

輿石座長：近いですから、立地を生かしていただけるとありがたい。

あと、災害時の緊急連絡で、町内会の会長と役員さんをお一人ずつ選定するというのをやっていたが、その後の運用状況がもし分かれば、後

で教えて欲しい。

高齢者の買い物支援でスローショッピングというのをやっていたりしているが、それもその後少し課題があると聞いている。

小嶋高齢・障害支援課長：先駆け的に行っている桂台の地域ケアプラザのスローショッピングについては、ボランティアさん自体は集まるが、当日の天気や本人の体調で利用者の方がなかなか集まらない日があったりして、少しミスマッチングになったりしていることは課題として感じている。

スローショッピングではないが、同じようなチームオレンジの活動自体は、それぞれのケアプラザで今少しずつ始まって、認知症カフェなども多くの地区で開催されるようになってきているので、現状としては認知症の取組は少しずつ進んでいると思っている。

興石座長：では、車両が不足しているとか、そういうハード面の課題は特にないのか。

小嶋高齢・障害支援課長：そういう話は特に聞いていない。ばすっぴー（コミュニティーバス）にも引き続きご協力いただいている。

興石座長：マイナンバーカードが進んだから混んでいるという文言が書いてあるが、これはマイナンバーカードの申請で混んでいるということか。マイナンバーカードが普及したら、必然的に別の意味で混み始めたということか。

杉田戸籍課長：今あるマイナンバーカードを最初にお取りいただいた方が、カード自体の10年更新を迎えている。それと、電子証明書、こちらの5年更新の波がちょうど今年度重なっている。予約枠をたくさん設けているが、予約枠だけではさばき切れなく、予約外のお客様もお待ちいただければご案内しているので、1日平均200人以上の方にお越しいただいている状況。

大桑議員：興石座長が話された区提案制度の5番に関するまちづくりについては、まちづくりとして一個一個は本当に課題がいろいろある。消防署と旧本郷地区センター、図書館や市営住宅といっぱいあるので、まさに独立行政法人都市再生機構の話も含めてまちづくりとして本当に一体で動かしていかないといけないと思う。ぜひまたそこら辺も皆さんで協議しながら、共有しながらやっていかないといけないと思う。

興石座長：予算案の考え方の説明の際に、地域の皆様の声を丁寧に伺いながらということ副区長からも言っていたのだが、先ほどの、栄区議

員団会議で質疑のあった、アンケートを取ってアンケートの集約を外部の企業に任せてしまうというのは、区民の声に寄り添ってリアルに聞く姿勢とはちょっと違うかなと思う。もっと区民の声の聞き方というのは精査すべきだと思っている。

笠間十字路を改修したが、やった後さらに混んでいるという声が届いてきている。それで事業の事後調査というのに入ってもらっているが、私も大きく関わらせていただいている。何でこのようなことが起きたかと考えたら、笠間十字路というのは、笠間の真ん中にあるのではなく笠間の一番端にあり、笠間人はほぼ大船駅を利用するので、笠間十字路を利用するのは上郷西連合町会、上郷東連合町会、本郷中央連合町内会自治会の皆さんである。本当に聞くべき地域の声は、笠間の人はもちろんのこと、区内全体で笠間十字路は誰のためのものなのかということももっと考えて聞いていけば、環状4号線の渋滞解消だけでなく、県道大船停車場矢部線の渋滞解消こそが栄区民のためのニーズだったのではないかということに、私は非常に心を痛めている。声の聞き方でもっと工夫できることがあったのではないかと思うが、これから難しい時代に、区民の声の聞き方というのを、さらに広く深く聞くということはどう思うか。

松永区長：笠間十字路に限らず、意見の聞き方にはやはりいろいろあると思っている。区民意識調査について、まず数量的なところは事業者に委託して集計するというのが事務の効率化という点ではいいと思うが、そこに寄せられているものをどう分析して読み解くのかというのは、こちら側がやっていることなので、そうしたところから数値的な傾向を拾うということと、こうした場や、地域との意見交換会でもそうだが、私どもが地域に出ていくときにいろいろなお声も聞いていく。そうしたことでも広がりを持たせながら、区政推進課や関係局などにこういうような課題がありそうだというのを言っていくなど、そういったところにつなげていく必要があると思っている。

興石座長：決して細分化して聞くことのないように、隣接というのを意識して連動していただくことが大事だと強く思った。

田中区政推進課長：先ほど、スローショッピングの車両に問題がないのかというお話を頂いたが、1つ補足させていただきたい。バスを運行されている事業者から、車両の老朽化によりこの先続けていくことができるかどうかというようなお話をいただいている。先ほど出てきた都市整備

	<p>局の補助金を使えないかという話をしており、続けられるように区としても努力していきたい。</p> <p>輿石座長：そのことを聞いたかった。ぜひ継続して応援してほしい。</p> <p>ほかに発言がないようであれば、本件は以上となる。</p> <p>会議報告書の作成については座長一任。了承</p>
備 考	